

サンプラテック

半導体にPFA拡大 数年後に2〜3倍規模へ

(株)サンプラテック(大阪)

市北区)のPFA(ペルフルオロアルコキシアルカン)ボトル、洗浄瓶といったフッ素樹脂製品が半導体向けに拡大している。各種材料メーカー、試薬メーカー向けに採用を伸ばしており、数年後には2〜3倍の売上規模に拡大を目指している。

同社はプラスチック製実験器具や設備、樹脂製容器を幅広く展開している。高性能プラスチック素材であるPFA製品はボトルやフラスコ、ビーカーなどをラインアップし、理化学分野向けに25年以上の実績がある。

半導体分野で用いられ始めたのは15年ほど前からで、海外向けの需要増をきっかけに知名度を上げてきた。PFAは、耐熱性、耐薬品性、非粘着性などの優れた特性を持っているが、なかでも金属イオンの溶出物が極めて少ない純粋性は随一である。酸やアルカリ

などほぼすべての有機溶剤に耐性を発揮でき、半導体製造用高純度試薬の保管、品質管理における長期サンプル保管などに用いられている。



PFA製品群

同社は、PFA原料を用いたブロー成形が可能な世界でも数少ないメーカーで、ニーズに応じた様々な形状やサイズの製品を提供できる。独自開発の成形機とカメラを備えた最新鋭の自動検査機によって高品質と高効率生産を実現し、台湾や中国など海外市場に安定した供給体制を築いており、高く評価されている。昨今の半導体市場の盛況を受けて順調に成長を続けており、海外だけでなく国

内市場でも注目が高まっている。海外市場は代理店を通じて販売しているが、新たなエリアを開拓すべく情報収集にも乗り出している。半導体を扱う展示会にも出展してPRする方針だ。また、ライフサイエンスなど半導体以外にも用途拡大を目指す。工場はフル操業が続いているため、さらなる事業拡大に向け生産能力増強も検討する。加えて、顧客の高品質化ニーズに対しても材料メーカーと協力して対応

する。PFAボトルは高付加価値でありながら消耗品として使用されるため、設備投資の波に左右されにくい。安定かつ継続的な需要が見込めるため、事業の柱にすべく取り組む。